

---

# 遠距離

みかんだいふく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遠距離

### 【Nコード】

N4179Y

### 【作者名】

みかんだいふく

### 【あらすじ】

……いつからだろう。

“着信なし”の四文字に、胸を落ちつかせるようになったのは。

……いつからだろう。

“着信なし”の四文字に、胸を落ちつかせるようになったのは。

……いつからだろう。

君からのメールを、着信を、手紙を。

連絡手段の全てを、いつそ断ち切ってしまいたい。

そう、思い始めたのは。

「離れていても、俺はずっと、彩あやのことが好きだから

そう言って、新幹線に乗って行ってしまった君。

その言葉は、今でももちろん信じてるよ。

「早く大学卒業して、彩を迎えに行きたいよ」

そんな一言に心を弾ませたのも、嘘じゃない。

……でもね。

君からの連絡がないことに、ホッとしている私がいるの。

君からメールが来ると、親指が震えて……なかなかボタンが押せないの。

怖い。

“やっぱり無理だ”って。

“別れよう”って……君が告げないとは限らないから。

遠くにいるから、不安になる。

ううん、それだけじゃない。

私たちはまだ、不完全だから。

完全には、お互いを信じ切れていないから。

だけど……だからこそ。

“誕生日、一緒に過ごせなくてごめん”

“彩と一緒にクリスマスケーキ食べたかったな”

別れを告げるメールじゃなくて。

本当に、ちょっとした……恐れるに足らないメールが愛おしい。

あと、少しだね。

もうすぐで、君が新幹線に乗ったあの日から四年。

桜が咲くころには、きっと迎えに来てね。

それまでは、震える親指を抑えて待ってるから。

大好きな君からの連絡、不安になりながらも、絶対、待ってるから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4179y/>

---

遠距離

2011年11月12日12時01分発行